

アームサイクルを国際保健福祉機器展に出展！

第21回国際保健福祉機器展が、平成6年10月26日(木)から28日(土)までの3日間東京国際見本市会場B C館で開催されました。この福祉機器展は、国内最大の展示会で、国内外の福祉機器に関する最新の各種情報を入手する絶好の機会です。

年々出展者、見学者(企業 一般 行政 施設・リハビリ関係者等)数も増加するなか、今年は、海外73社、国内202社の出展があり、平日ながら連日とも2万5000人を超す人たちが訪れ、3日間で延べ8万4024人が来場しました。また、高齢化が進行する中で、福祉機器業界に新たに参入する企業も増加しており、シルバー産業が拡大しつつあることを物語っています。

福祉機器展に出展される車いすも様々ですが、最近では、手動車いすに補助動力を簡単に取り付け、介助者の手助けとなるものが開発されています。さらに、日常生活で使用する車いすばかりでなく、3輪タイプのチェーン駆動式ハンドサイクル・マラソン用車いす テニス用車いす チェアスキー等々、障害者が戸外でスポーツ・レジャーを楽しむことができる乗り物の開発も進み、各メーカーから出品されています。

当技術研究所においても、下肢障害者の人々が、サイクリングのようなスポーツができるようにと、平成2年度より手で漕ぐ自転車(アームサイクル)の研究開発を進めてきました。そして、健常者と共にサイクリングを

楽しめるような乗り物の試作研究を積み重ね、2種類の3輪アームサイクルを完成させることができました。1種類は、クランクタイプでクランクにより駆動し、体の重心移動またはハンドルにより操舵するタイプ、もう1種類は、レバータイプでレバーの前後揺動で駆動し、ハンドルにより操舵するタイプです。

この2タイプを、アームサイクルの普及とPRを兼ね福祉機器展に出展しました。展示ブースは、1小間と小さかったのですが、多数の方々が訪れ、機構、値段、販売ルート等について多数の問い合わせがありました。しかし、現時点では、予想販売台数も不透明なため製造販売メーカーが見つからないのが現状です。

しかし、参考出品ながら、実際にアームサイクルの動きをご覧になった方々は、大変興味をもたれ、それぞれの立場でのアームサイクルの利用方法について、意見を伺うことができました。そして、写真1、2のように障害者の方々にも実走行してもらい、好評を得ることができました。

今後は、さらに多くの障害者がアームサイクルを楽しむことができるような方策を、自振協として検討していく必要があることを実感致しました。

なお、技術研究所では、さらに、自転車に近い2輪タイプでの走行ができるような、アームサイクルの試作開発にも取り組んでいます。(福祉機器研究グループ)



写真1 技研ブースにて

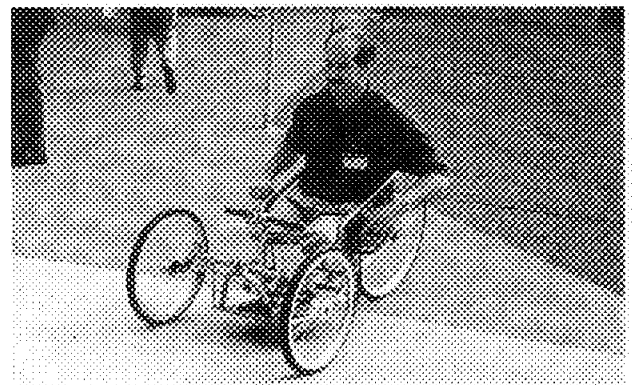


写真2 会場にて試乗(下肢切断者)

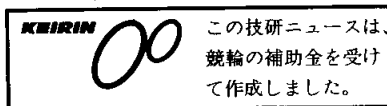
◎依頼業務手数料および施設利用料改定のお知らせ

当所は、自転車業界からの依頼により試験 加工などの業務を引き受けております。そのほか施設(機械・器

具)の一部も企業各位に利用していただいておりますが、諸般の事情により平成6年12月1日から手数料を改定実施しておりますのでご了承下さい。

技研ニュース No.143
(1995年1月10日発行)

発行所・財団法人 自転車産業振興協会 技術研究所
〒484 愛知県大山市宇新川1番の6 電話(0568)67-0437
FAX (0568)68-1347



大阪支所 〒590 大阪府堺市戎之町西1丁3の3 電話(0722)38-8521
自振協本部事務局 〒107 東京都港区赤坂1の9の3 電話(03)5572-6409